

# 日食撮影とその編集

- カラーコピー機の利用 -

塩田和生

## 1. はじめに

12月24日の朝には、日本全国で部分日食が見られます。この日食は九州の一部を除いて日の出後欠け始めるので、今年1月5日の日食の時のような変わった形の日の出を見ることは望めませんが、工夫次第で写真撮影の面白い被写体になることは確かです。

ところで部分日食の撮影というと、多重露光による連続撮影や、拡大撮影で黒点も写しながら欠けた形を撮影する等が一般的ですが、いずれもありふれていて、日食情報の読者の皆さんなら何か一工夫をと考えられていることでしょう。そこで今回は、最近普及してきたカラーコピー機を利用して、合成組写真を作る工夫について紹介しましょう。

## 2. 最近のカラーコピー機

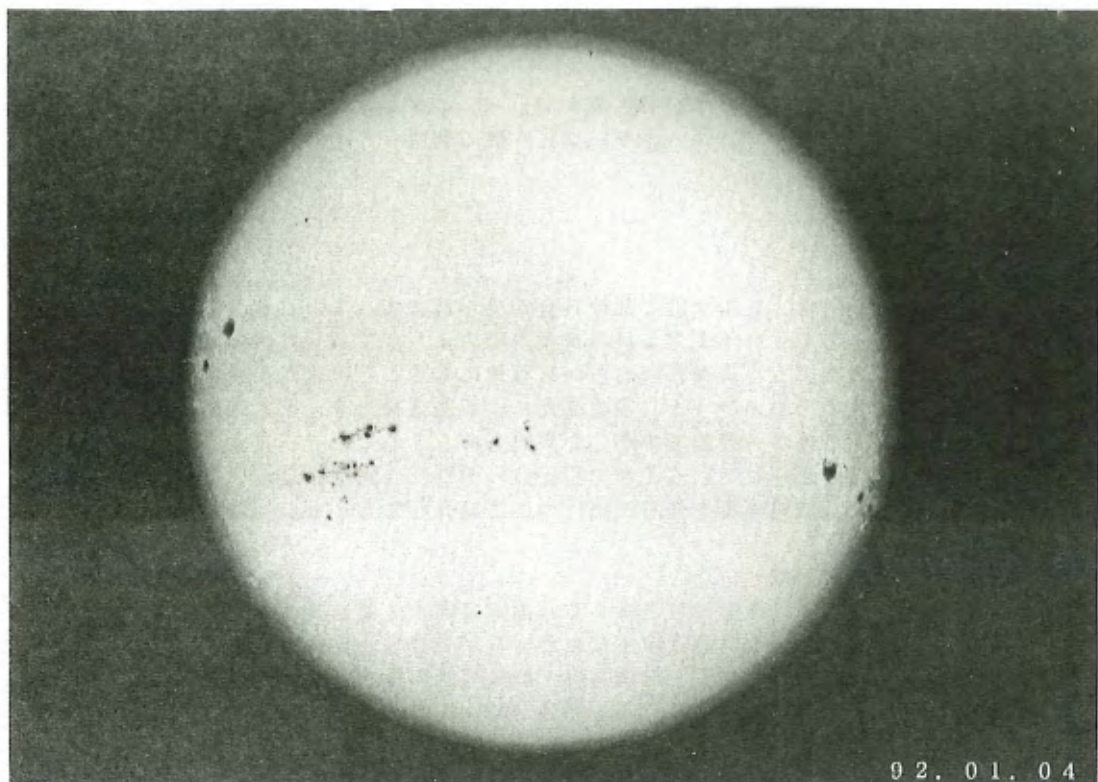
最近のカラーコピー機の進歩は目ざましく、画質の向上・使い勝手の改良・低価格化がどんどん進んできています。表1は最近の主なカラーコピー機の一覧表ですが、いずれも数年前のカラーコピー機と比べると色再現・階調再現・解像力等の性能が格段に進歩しています。私も仕事柄これらのカラーコピーを使ってみる機会が時々あり、最近は天体写真のコピーでも結構使えるようになったと感じています。

参考までに、A-COLORで太陽の写真のコピーしたものがオリジナルと比べてどの程度の差があるかを図1に示します。日食情報の印刷の質ではちょっと分かりにくいかもしれませんが、コピーの画質も結構いい線を行っています。また「日食情報(92 No.1)」の3ページの写真のオリジナル(スライドからのダイレクトプリントを台紙に並べたもの)を、コピースタットでコピーしたところでは、若干階調が硬くなるものの結構いい画質のコピープリントが得られています。さらに、コピーのサイズはA4やB4などが選べますから、写真を整理する点から言ってとても便利です。また大抵のカラーコピー機は、自由に拡大縮小することが可能で、OHP用紙へのコピーの可能になっています。

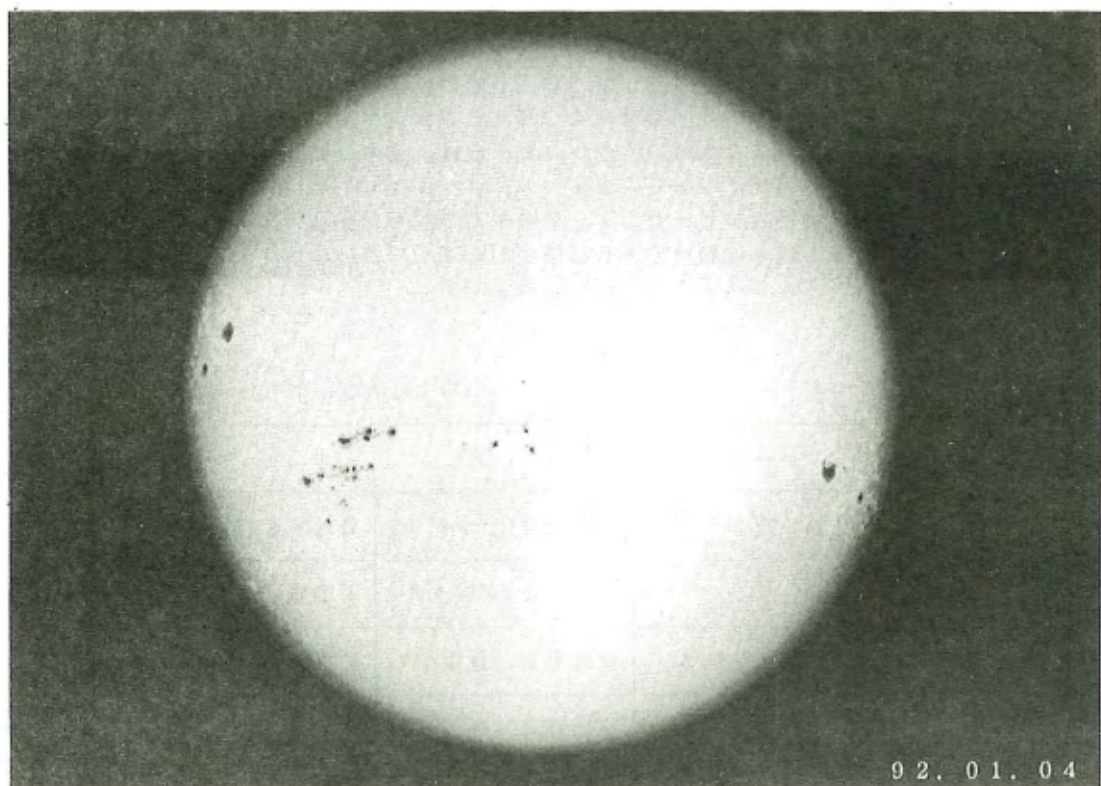
カラーコピー機は、会社のコピーセンターや町中のコピーショップにかなり普及していますので、自分の回りを少し探せば利用できる機械があるはずで、コピーショップでの料金は、300～1000円(A4サイズ1枚あたり)程度です。

表1. コピーショップ等に設置されている主なカラーコピー機

機種名	メーカー名	方式	コピー用紙
A カラー	富士ゼロックス	静電転写(デジタル)	普通紙、コート紙、OHPフィルム
ピクセル・ディオ	キャノン	静電写真(デジタル)	普通紙、コート紙、OHPフィルム
コピースタット	富士フィルム	銀塩写真(液現像)	印画紙、OHPフィルム
ピクトスタット	富士フィルム	銀塩写真(熱現像)	印画紙、OHPフィルム



太陽黒点の写真 (コピー: Aカラー)



太陽黒点の写真 (オリジナル)

### 3. 日食写真にコピー機をどう使うか

では、このような高性能カラーコピー機を日食写真にどう応用するかについての話をしましょう。といっても、私も本格的に使ってみようとしているのは今回の日食が始めてですから、私の計画の紹介とすることになります。

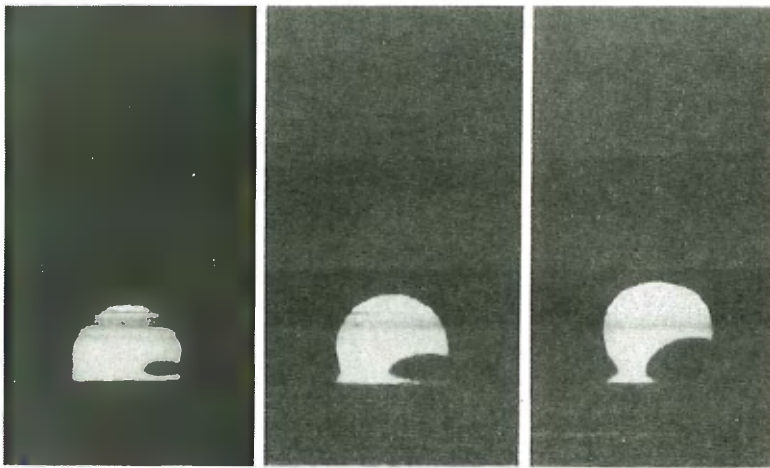
まず、撮影は次の2種類のスタイルを計画しています。

A. 6×7フォーマットに  $f = 90\text{ mm}$ 程度で連続食分撮影

B.  $f = 2000\text{ mm}$ 程度で35ミリフィルムに、黒点と欠けた太陽を撮影

そして、これらの写真をそれぞれプリントにした後、ワープロでタイトル・データ等を印字した台紙にプリントを貼り付け、それをカラーコピー機でコピーしようというわけです。

従来でもこのようなコピー自体は可能でしたが、画質的にかかりすぎるものしか出来なかったのが、表1のような最新のカラーコピー機を使うと、結構観賞に耐えるプリントに仕上がるはず。カラーコピー機は画像編集を行ったプリントを作る上で威力を発揮するはずですから、マンネリの部分日食写真から脱皮したい人には利用価値が十分あると思われます。



日出帯食 (コピー : コピースタット)